

(公社) 宮城県放射線技師会

# 令和 8 年度 学術講演会 プログラム抄録集



テーマ 「撮影室で支える安全管理」

令和 8 年 **5** 月 **30** 日 (土)

10:00 ~ 14:10

仙台サンプラザ「宮城野」

# (公社)宮城県放射線技師会 令和8年度学術講演会 プログラム

## テーマ「撮影室で支える安全管理」

**10:00～10:05【開会のあいさつ】** (公社)宮城県放射線技師会 学術部長 三浦一隆

### **10:05～12:10【企画講演】「各検査における安全管理」**

座長 船島健太郎(仙台赤十字病院)・半田佐斗子(東北医科薬科大学若林病院)

①「外傷患者救急撮影における安全管理について」

仙台西多賀病院 放射線科 高橋海翔

②「当院における造影剤投与マニュアルについて」

東北労災病院 中央放射線部 佐々木輝

③「マンモグラフィにおける安全管理」

石巻赤十字病院 放射線技術課 佐藤明日香

④「小児専門施設が考える安全管理とその取り組み－鎮静時の安全管理と鎮静をしないという安全－」

宮城県立こども病院 放射線部 本郷悠知

座長 村崎昌洋(東北大学病院)・山内佑一(石巻赤十字病院)

⑤「胃X線検査の安全管理～タブレットを利用した安全管理～」

一般財団法人社の都産業保健会 医療部兼マネジメント室 鎌倉克行

⑥「IVRの安全管理 ～仙台厚生病院カテ室の心機一転移転後の今～」

仙台厚生病院 放射線部 齋藤和久

⑦「装置導入時の情報管理アイテム ～MDS/SDS～」

みやぎ県南中核病院 放射線部 木村弘樹

⑧「MRI 検査前の安全管理～当院の金属チェック体制について～」

東北大学病院 診療技術部放射線部門 宮原修人

### **12:20～13:05【ランチョンセミナー】** 共催：PDR ファーマ株式会社

座長 竹内孝至(東北大学病院)

①「onti ～医療被ばく線量の電子記録・最適化を支える～」

PDR ファーマ株式会社 営業本部営業部東北支店 関口拓人

②「骨シンチを起点に考える核医学診療の進化と安全管理」

横浜市立大学附属病院 放射線部 / 東北大学大学院 医学系研究科画像解析学分野  
尾川松義 先生

### **13:20～14:05【教育講演】**

座長 三浦一隆(仙台赤十字病院)

「見て・見て・マネして Go !!! ～ベスト気楽ティスに続けるCT室の医療安全の取り組み～」

岩手医科大学附属病院 中央放射線部 千葉工弥 先生

**14:05～14:10【閉会のあいさつ】** (公社)宮城県放射線技師会 会長 坂本 博



## 外傷患者救急撮影における安全管理について

仙台西多賀病院（前 仙台医療センター） 高橋海翔

国立病院機構 仙台医療センターは 3 次救急医療施設として仙台医療圏を中心とした救命医療の一端を担っている。そして対応する疾患は、重症外傷、脳卒中、急性心血管疾患など多岐に渡る。放射線科においては、通常業務に加えて、それぞれの疾患に対してレントゲン、CT、MRI などを緊急的に行っている。

救急外来から依頼される検査は、重症度の高い患者を撮影することが多いため、迅速な検査が求められる。また、患者にはモニターや点滴などが繋がれていることが多く、ライン管理を含めた安全管理も重要だと考えられる。レントゲン検査においては、ストレッチャー上で撮影するケースが多く、患者の痛みや状態を考慮しながら、管球の振り角度や体位など様々な工夫が求められる。また、医師や看護師とのコミュニケーションも必要不可欠となってくる。

本講演では、外傷患者の救急レントゲン撮影を中心とした安全管理についてお話する。

## 「当院における造影剤投与マニュアルについて」

東北労災病院 中央放射線部 佐々木輝

当院では CT 造影検査を一日平均 15 件行っている。副作用の発生時の対応の認識に職員ごとに違いがあり、新人職員の増加により、明確な基準の設定が必要不可欠となった。そこで当院では昨年、造影剤投与マニュアルを改訂した。本マニュアルは ESUR(欧州泌尿生殖器放射線学会)のガイドラインをもとに作成している。本学術講演会では当院のマニュアルの紹介に合わせて ESUR ガイドラインについて紐解いていく。

## マンモグラフィにおける安全管理

石巻赤十字病院 放射線技術課 佐藤明日香

日常の品質管理として精中機構が定めた方法で 156 ファントムを使用しての画質チェック、高精細モニターの点検を行っている。

検査前の注意として、マンモグラフィを行う上での禁忌や注意が必要となる埋め込み型のデバイスや制汗剤やパウダーなどアーチファクトとなる要因を検査時に把握できるように検査の受付時に注意書きを配布。またふき取り用のウェットタオル、髪をまとめるための使い捨てのヘアゴムを検査室に備え付けている。検査中の注意として、服を脱いで検査、また痛みを伴う検査であるため緊張もやすく貧血や迷走神経反射で体調の変化が起こることがあるためその対応としての内線連絡先の指導や掲示をしている。また、対応のスタッフもなるべく女性で行えるよう配慮をしている。

マンモ生検を行う際、トモシンセシスの導入によりターゲットの決定をより精度高く計画できるようになった。生検実施時に診療看護師がつくことで医師の負担軽減、急変時の対応も早くでき検査の安全性を高めている。

## 小児専門施設が考える安全管理とその取り組み

－鎮静時の安全管理と鎮静をしないという安全－

宮城県立こども病院 本郷 悠知

小児の撮影では、患児が検査に対する不安感、恐怖心による体動の影響を抑え、画像の質を担保するために鎮静を行うことがある。しかし、鎮静には気道閉塞や呼吸抑制などのリスクが伴い、適切な安全管理が重要となる。一方で、医師、看護師など他職種と協力した検査環境の構築や撮影方法の工夫により、鎮静を行わない撮影を実施することも可能である。

当院は東北唯一の小児専門施設として、鎮静時の安全管理体制の整備に加え、各検査で患児の不安感、恐怖心を取り除くための検査環境の構築や、検査の目的に応じた撮影を検討し、鎮静を行わない検査の実施にも取り組んでいる。

本発表では、小児の撮影における鎮静時の安全管理の実際とともに、鎮静を行わない検査を実施するための工夫や取り組みについて報告する。

## 透視撮影装置(胃 X 線検査)の安全管理 ～タブレットを利用した安全管理～

一般財団法人 杜の都産業保健会 鎌倉 克行

胃 X 線検査においては、誤嚥や転倒、被ばくなど多様なリスクに対する包括的な安全管理が求められる。本検討では、障害者差別解消法に対応した受診環境の整備を基盤とし、安全管理体制の構築について報告する。車椅子受診者に対しては電動リフトを導入し、安全かつ円滑な移乗を実現した。また、技師の手技の標準化により検査精度と安全性の均質化を図った。さらに、タブレット端末を活用し、聴覚障がい者や外国人への多言語・視覚的説明、ならびに問診の電子化を行うことで情報伝達の確実性を向上させた。加えて、透視装置の各種オプション機能を活用した物理的安全対策および線量管理ソフトによる被ばく管理を実施した。これら多面的な取り組みにより、安全性の向上と受診者対応の質的改善が得られた。

## IVR の安全管理 ～仙台厚生病院カテ室の心機一転 移転後の現状～

仙台厚生病院 放射線部 齋藤 和久

当院では循環器内科および心臓血管外科により、循環器用 X 線透視診断装置を用いた IVR が多数実施されている。循環器内科では PCI、PTA、TAVI などが、心臓血管外科では EVAR など多岐にわたる IVR が行われている。仙台厚生病院は 2024 年 5 月に移転し、X 線透視診断装置を含む各種医療機器および配置が一新された。これに伴い、当院における IVR の医療安全管理について、適切な引継ぎと体制再構築が必要となった。新規設備導入後の現状を一部報告する。①新規 X 線透視診断装置のタッチパネルコンソールおよびモニターレイアウトシステムにより検査室内で術中操作が可能となり安全管理が向上、②ネットワーク監視カメラによる各検査室の状況把握、およびに録画データを用いた緊急対応や事故のフィードバックに基づくシステム改善・再発防止の検討が可能、③インカムシステムにより救急外来およびカテ室スタッフ間の情報共有・連携が強化され、緊急治療や機器トラブルへの迅速対応に有用であった。

## 装置導入時の情報管理アイテム ～MDS/SDS～

みやぎ県南中核病院 放射線部 木村弘樹

医療機器やサービスを導入する際、自施設の安全を担保するために情報セキュリティや保守対応、リモート接続などについてメーカーと協議のうえ合意を形成する必要があります。

これまではメーカーから提供される情報に定められた形式がなかったため、施設のセキュリティ対策を確保するために“気になるところは施設側から問い合わせる”対応が必要でした。あるいは“メーカーを信頼する”という曖昧な基準で導入されていました。そのためセキュリティ対策の不備や責任の所在を厳密に定義できない場合もあり施設側の負担は大きい状態でした。

「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」は、医療情報システムのセキュリティ機能に関する説明の標準的記載方法を定めており、“製造業者/サービス事業者が作成”します。そのため施設はセキュリティ対策状況の把握が容易になり、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」を遵守するために必要な対策の対応状況の比較や把握が容易になります。

## MRI 検査前の安全管理 ～当院の金属チェック体制について～

東北大学病院 診療技術部放射線部門 宮原 修人

日々の MRI 撮像には、吸着事故や熱傷など様々な重大なリスクが伴い、安全管理は診療放射線技師の重要な役割である。特に検査室入室前の金属チェックは吸着事故、体内金属による傷害の予防の観点からも極めて重要であり、国内外の各種ガイドライン、提言においてもその徹底が求められている。本講演では、撮像前の金属チェックに焦点を当て、ガイドラインや文献を参考にしながら、当院の問診方法、金属チェックリストの活用、磁性体検知器の使用など具体的な運用方法について紹介する。さらに、現状の取り組みによる安全、運用面での利点を示す一方で、明らかになった課題についても紹介する。これらを踏まえ、より安全で実効性の高い金属チェック体制の構築に向けた改善策などを考察する。

## 見て・見て・マネして Go !!!

～ベスト気楽ティスに続ける CT 室の医療安全の取り組み～

岩手医科大学附属病院 中央放射線部 千葉工弥

CT 部門の医療安全は、特別な対策だけでなく、日常業務の中にある「小さな習慣」によって支えられている。本講演では、当院で実践している「気楽」に継続可能な取組みを紹介する。

安全管理の柱は、スタッフ間の「助け合い」と不測の事態への「備え」である。「助け合い」については、多職種連携を通じてヒューマンエラーが発生しやすい場面をチームで言語化・共有する仕組みを構築している。他部署の情報も「他人事」とせず「自分事」として捉え直すことで、潜在的なリスクを未然に防ぐヒントとして活用している。

一方「備え」としては、装置トラブルや造影剤による急変等を想定し、補助ツールの導入や日常的なシミュレーションを重視している。スタッフ一人ひとりが当事者として関わることで、医療安全を厳しいルールではなく「チームを支えるマナー」と捉え直し、日常の延長線上でより強固な安全文化の醸成を目指す。

本講演では、その具体的な実践について報告する。

(公社) 宮城県放射線技師会 令和8年度学術講演会

# ランチオンセミナー

日時

2026. **5.30** (土) 12:20~13:05

場所

開催場所：仙台サンプルザ「宮城野」3階

住所：宮城県仙台市宮城野区榴岡5-11-1

情報提供：onti ～医療被ばく線量の電子記録・最適化を支える～  
PDRファーマ株式会社

座長

竹内 孝至 先生

東北大学病院 診療技術部放射線部門  
副診療放射線技師長

講師

尾川 松義 先生

横浜市立大学附属病院 放射線部  
東北大学大学院医学系研究科画像解析学分野

## 骨シンチを起点に考える 核医学診療の進化と安全管理

共催：公社 宮城県放射線技師会 / PDRファーマ株式会社